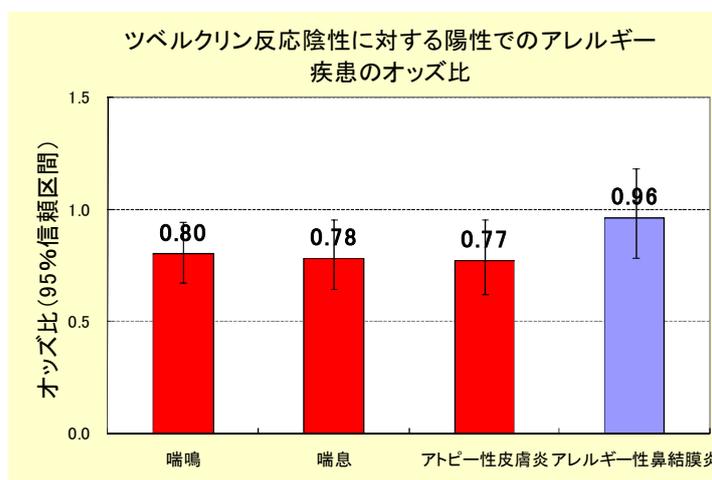


ツベルクリン反応とアレルギー疾患との関連

背景：BCG ワクチン接種やツベルクリン陽性反応がアレルギーに予防的であるのかどうかの議論が続いています。

方法：那覇市の小学3～5年生で琉球小児健康調査に参加した子供のうち、学校健診のBCGとツベルクリンのデータがあり、解析に用いた要因のデータ欠損のない5,717名を対象としました。ISAACの定義に従い、過去1年に喘鳴、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻結膜炎の症状のある場合、各アレルギー疾患有りとしてしました。年齢、学年、兄弟数、両親の喘息、アトピー性皮膚炎またはアレルギー性鼻炎の既往歴、両親の教育歴を交絡因子として補正しました。ツベルクリン反応で硬結の直径が10mm以上の時、陽性と定義しました。

結果：5,717名のうち、幼少時にBCGワクチンの接種を受けていない子供は150名いました。ワクチン非摂取群に比較して、ワクチン接種群の喘鳴、喘息、アトピー性皮膚炎及びアレルギー性鼻結膜炎の補正オッズ比は、それぞれ0.75、0.68、0.64、0.93でしたが、いずれも統計学的に有意ではありませんでした。



5,567名のワクチン接種群で、小学校就学時にツベルクリン陽性の子供は2,710名いました。ツベルクリン陰性の子供を基準として、陽性の喘鳴、喘息及びアトピー性皮膚炎の補正オッズ比は、それぞれ0.80、0.78、0.77と統計学的に有意に負の関連を認めました。両親のアレルギー既往別の解析では、両親ともアレルギー既往のない群でより強い負の関連が認められました。ツベルクリン反応とアレルギー性鼻結膜炎との間に関連はありませんでした。

結論：ツベルクリン陽性反応は喘鳴、喘息及びアトピー性皮膚炎の低い有症率と関連があるのかもしれませんが。

出典：Miyake Y, Arakawa M, Tanaka K, Sasaki S, Ohya Y. Tuberculin reactivity and allergic disorders in schoolchildren, Okinawa, Japan. Clin Exp Allergy. 2008; 38: 486-492.